

IARU GSP @Australian National Universityに参加して

はじめに

私はAustralia National Universityで開催された、"International Environmental Policy"コースに参加してきました。コースの概要は、19日間の滞在中に私がかねてより興味関心を抱いていた環境問題について政策という観点から幅広く扱うものでした。参加期間中は、ほぼ毎日授業や課題がありました。コースの講師としては、Tuvaluの代表として気候変動に関する世界会議でも活躍するIan Fryという方が講義をしていただけたので、世界で起きている事をわかりやすく理解できました。学生の参加人数は15人でした。東京大学2人、北京大学2人、シンガポール国立大学2人、ANU3人、ほかIARU各参加大学から1人ずつ参加者が来ていました。IARUの目標通り、世界各国から学生が集まり多様性を体現していたと思います。

授業

Intensive CourseとCoordinatorの方が謳っているだけあって、その内容や授業校生というのは本当に勉強させるものでした。3週間近く、環境問題についてしっかり勉強することができ、私が期待していたものを超えるような充実した内容でした。以下具体的な授業内容に触れたいと思います。

基本的な授業内容としては、現在世界で問題になっている環境問題に関して、生物多様性から気候変動、南北問題や国連の環境問題を扱うinstitutionであるUNEPなど幅広いトピックを扱いました。私は農学部で勉強していますが、このような各論のような話を正確に勉強する機会は持たなかったもので、大変興味深く授業を受けられました。授業形式としては、講義、動画鑑賞、tutorialといったものでした。講義はIanが毎回2時間程度あるトピックについて話してくれて、その日取り扱った内容と同じ環境問題について扱った動画(ニュースやドキュメンタリーなど)を1時間鑑賞し、その後、tutorialでは理解を深めるようなゲームをしたりdiscussionをしたりといったものでした。Ianの授業は本当にわかりやすく、また問題を提起するようなものだったので、生徒間でも大変評判が良かったです。世界の環境問題の最前線で議論を重ねる彼から多くの話を聞いたのは大変素晴らしい経験となり、より環境問題に関して興味関心を抱きました。

また興味深い授業としては、tutorialという授業でした。これは生徒が90分程度の授業を企画考案し、ほかの生徒に授業を披露して、その内容に関する理解の促進を手助けするといったものです。友人たちに聞いたところ、普段から20分程度の司会を授業ですることあるとのことだったので、そのことにも驚きました。内容としては、担当ではない回においては前日までに各テーマに関する論文などのarticleを20ページ程度読まないといけず、睡眠時間を削る日々でした。また、私が担当したテーマとしては、現在の環境問題がなかなか前進しない原因のひとつとして考えられているUNEPに関するものでした。英語があまり得意でない私は準備も司会進行も大変苦労しました。友人たちと仲良くなれていたのに特に不安に思うことはなかったのですが、日常英会話のみならずあらゆるテーマに関して自由に話せない議論をまともにできない限り、英語ができると言えないと痛感したのもこのtutorialを通してでした。

課題としてPolicy Makingといったものも行いました。これは来年2012年にBrazilのRioで

地球サミットが1992年以来開催されることに付随したものです。内容としては、Green Economyがテーマとなっています。そこでIanが私たちに課した課題は、Least Developed Countryの宰相にCivil Societyの一員としてGreen Economyの導入を提案してLDCの問題を解決するといったものでした。1500words程度のPolicy Briefを二つのテーマに関して書くように求められたもので、生徒それぞれには異なる国が割り振られました。これは大変面白い課題であると感じました。ある国における問題を正確に把握していないとまともな提案はできないし、またある程度オリジナリティも求められるものと思えるからです。ただこの課題は大変きつものでした。私はDjiboutiを割り振られましたが、その国に関する前知識も何もない状態だったので、まずリサーチが大変でした。二日間の時間をいただきましたが、nativeの友人ですら徹夜に近いような形で課題に取り組んでいましたから、帰国子女でもなんでもない私はもちろん徹夜で取り組みました。わざわざANUの保有地でもあるKiolaというビーチがきれいな土地まで来たにも関わらずひたすら部屋にこもって課題に取り組まないといけな状況にみな不満があったようでしたが、大変いい経験になったと思います。

幅広く環境問題について勉強できた今回の留学で、より環境問題に関して関心と危機感を抱くことになりました。漠然と将来はGreen Economyなんかに関わることを望む程度の気持ちでいましたが、GSPを通してその道に進むことへの願望をより強固なものとなりました。

暮らし

私が苦労したものは、英語はもちろんですが、食事です。寮の食事は基本的には大変おいしいのですが、口に合わないものも多かったです。あとオーストラリアは物価が大変高く、外で食事をするのに日本でこれくらい出せば食べられるだろと思う金額の二倍くらいのお金を出さないとはいけませんでした。食事に関する不満は多々ありますが、それだけ日本の食事は私の口に合っていて、また外食産業というのも多様化しているので、安くおいしく食べられるといったものなのだと思います。オーストラリアのビールは大変安くおいしかったので、その点だけは大変うれしかったです。海外に短期留学に行った友人などが日本食が恋しくなると言っていた理由がよくわかりました。

留学

留学というものに関して漠然とした憧れ・願望というものを抱いていましたが、GSPはその気持ちをますます大きくしてくれました。

まず、英語力に関しての意識の変化。日本においてTOEICが英語力を測る上でよく用いられており、私もある程度の点数を取っていたので、会話などに少しは参加することが出来るかと思っていました。しかし、実際参加してみて、普通の会話ですらおぼつかず、ましてや授業におけるハイレベルなディスカッションなどに加われるはずもありませんでした。帰国子女を除けばある程度の実力はあると勘違いしていた自分が恥ずかしくなりましたが、自分自身の英語力を正確にとらえることが出来たのは重要な収穫でした。世界で活躍するうえでは、英語ができないと舞台にすら上がれないと痛感しました。授業で英語を毎日使っているデンマークの友人すら英語をだめだしされていたのだから、日本に暮らす私はより努力をしないと切に思いました。

また、様々な大学、国から学生が参加していたので、文化的な交流や友人達の意見など

聞けたことも大きな収穫でした。環境問題に関心が高い学生で構成されていたので比較的可成りリベラルな観点を持った人々の集まりだったかと思いますが、関心の的はアメリカ合衆国に多く集まっていた。他にも中国共産党の話や、シンガポールの二年間の兵役の話など、知らなかったことや事実を知っていても実際の声を知らないことなど、考えさせるような話は多かった。インターネットで探せば知れるような話も、実際に顔を見合わせて友人から聞くとより実感を持って問題に関して考えることができるし、日本という国がいかに恵まれているかということなどに関しても思い至りました。留学における最大のメリットは、このような話を聞いて広い世界の現状を知れることだと思っていましたが、やはり友人との会話は面白かったです。

海外の大学の寮などに暮らしていたの東京大学以外のキャンパスで学生生活を送れたのも刺激的でした。ANUはキャンベラにあり、オーストラリアの首都ながら本当に田舎町といった形で小さな都市でした。寮で生活を送れたのも楽しかったです。現地のANUの学生は大変フランクに話しかけてくれて、交流を楽しめた点、また同じ参加者同士気軽にご飯を共にしたり遊んだり出来た点で素晴らしいと思いました。現地の学生同士、たくさん交流が行われており、誕生日の人は服をパンツ一枚にされて近くの池みたいなところに落とすのが恒例という事で、真冬にも関わらずこの行事はしっかり行われていました。また男女が同じ寮の中に住み、トイレもお風呂も共有している文化には驚かされました。このようなことは西欧においては普通に行われているとOxfordの友人などが教えてくれました。彼女は韓国出身だったので、アジアなどではまず見られない光景だよと笑って話してくれましたが、このような小さなところにも文化の違いが大きく反映されていて興味深かったです。日々生活するうえで多くの文化的違いなどにも触れることができたのは、再び社会に関して思索する際に大変有意義だったと感じています。

また、現地の学生などを見てその国際性の豊かさには驚きました。様々な文化的背景を持っているので、深く話していくと違いなどより感じられて留学という意義がより見出される気がしました。余談ですが、現地に置いて参加期間中に卒業式が執り行われていましたが、日本人の姿はなく、アジア系は中国系と韓国系ばかりでした。日本人が海外に行かないという原因は多くあると思いますが、国際感覚を持った人が政治などを引っ張っていく上では大事だと思うので、いかにそこを変革していくか社会として考える必要があるように思いました。

総括

GSPを通して大変貴重な経験ができました。国際理解への関心、留学への関心、今回ANUのテーマであった環境問題に対する関心、それぞれに対する意識は大幅に変わり、大きくなりました。特に世界中に友人ができたことが貴重でした。参加志望書に私は「東京大学は兎角多様性がないようなコミュニティであり、わかりやすいほどの多様性を孕んだIARUに参加することで自身の価値観や感性に影響を与えたい」と書きましたが、その願いはまさに叶えられました。日本国外で生活したことがない私にとって、一か月にも満たないですが、今回の滞在は大きく影響を与えるものでした。

また参加期間中は世界各国の友人に日本のことを多く聞かれたりすることを通じて、日本人というアイデンティティを意識することになりました。日本において外国から来た人と知り合う機会というのはあまりないと思います。ですから日本という国の状況や文化について話す機会は少ないと感じていました。結果、自分自身日本人であると認識する場面

というのではないのではないのでしょうか。しかし、GSP参加期間中に友人たちに日本文化について聞かれたりして、日本には誇る文化歴史も恥じらう文化歴史も双方持ち合わせていることを再度認識しました。今後、日本人としてどう生きていくか、どう政治や文化に関わっていくかなど、私には再考する機会になったと思います。海外に出るということは、自分自身のルーツを確認するという点においても大変重要であると留学の新たな一面を確認しました。まだ頭が固まっていないうちに留学という手段で自分自身の世界を広げていきたいと真に思わせてくれた三週間でした。

IARU GSP 2011に参加して

今回 ANU で開かれた **International Environmental Policy** をテーマにした **GSP** に参加した目的は海外の大学生と一度勉強してみることと、今後現在の専攻である地球惑星物理学科関連の研究者を目指すか、より社会との関わりの深い国際環境政策寄りの進路に変えるかを考えることでした。また学部を卒業してから海外に行くことも視野に入れていたので、実際海外の大学生、特に **IARU** に加盟しているような一流の大学の学生と自分が同じようにやっていけるか自分の力を試してみたいとも思っていました。そして **GSP** に参加するにあたって文系寄りのプログラムだったので理科系の視点そして日本人的視点を他のプログラムの参加者に提供したいと思っていました。

ANU での **GSP** には **IARU** 加盟大学のすべてから学生が参加しており、さらに専攻も様々で文化的にも学術的にも背景の異なる多くの学生と交流し世界中に友達をつくることができ、**GSP** の内容とは別にとても貴重な体験をさせてもらいました。参加者の背景の多様性もあり、**GSP** でのディスカッションでは自分からは出そうもない意見が聞け、逆に日本だったら当たり前だと思われるような事も興味深い意見として取り入れてもらえ、活発な議論ができたと思います。ですが、やはり考え方や価値観、習慣などの違いを超えて理解しあう難しさを感じることも多々ありました。授業中のディスカッションだけではなく、食事の取り方などの日常生活の中でもこう行ったことを感じるがありました。例えば食事を残したりすることに抵抗を感じる人が日本に比べて少なかったり、トイレでペーパータオルが必ず置いてあるなど紙の消費量が多いと感じる一方、オーストラリアでは水不足によく陥ることが多く節水に対する意識がとても高いことなどがありました。日本では湯水のごとく... という言い回しがありますがオーストラリアでは考えられない事だと思いました。このように異なる考えや価値観を持った人同士、もしくは国家間同士で協調していくためには、様々な差異を認め、妥協し、細かい事に気を取られない事が重要だとも思いました。以前よりは国際化が進んだとは言え日本はまだまだ日本人が人口の殆どを占め、日本人は協調性が高い代わりに自由に自己主張したり、自己主張をする人を受け入れたりすることが苦手だと思います。

理系だったので文系寄りだった **GSP** の内容についていけるか少し心配だった部分もありましたが、もともと様々な背景の学生を対象としていたこともあり、自分の専攻が直接環境政策に関連していないことで遅れを感じることは殆どありませんでした。むしろ普段の授業と内容があまり重なるところが無かったので、**GSP** の内容が新鮮で多くを吸収することができたと思います。また日々**GSP** で出された課題も他の参加者と同様にこなし、ディスカッションでも積極的に参加でき、自分も海外の学生とやっていけるという自信になりました。

ただ他の参加者が夏休み（冬休み）中の GSP の参加だったのに対し、自分の場合は東大の授業期間・試験期間と重なってしまい、東大からの課題や試験勉強にも追われる事になり GSP の期間中はとても大変でした。各授業担当の先生方との出席などで不利にならないように頼んだり、試験期間内に受けられない試験の調整をしなくてはいけなかったりなど、海外の学生に比べて参加の準備の段階からハードルが高かったように思います。GSP 中東大の課題に時間を取られてしまったのは、東大の授業と ANU でのプログラムとを両立させるためには仕方がない事ですが、GSP の内容にもっと集中して勉強し、もっとその期間中そこでしか勉強できない内容を吸収したかったと思いました。また自由時間の殆どを東大からの課題に費やさなくてはいけなかったのも、参加者との交流する時間が少なくなってしまうととても残念でした。

日本の大学では4月始まりで海外の大学と半年ずれてしまっている事や、夏季の長期休みがあまり重ならないなど学生が留学しようとしたときにとっても不利な立場立たされていると思います。学期の始まりや長期休暇がずれてしまうのはなかなか変えられないにしても、より学生が留学しやすくなるように大学側でもっと留学中の勉強がしやすくなるような体制作りはできるのではないかと思います。試験期間中に受けられなかった期末試験を別日程でいくつか受けさせてもらいましたが、公平性を保つためにできるだけ試験日に近付け帰国直後に受ける事になりました。しかし、本当にそれが公平なのかは疑問に思うところです。もし帰国1週間後まで試験日が伸びてもさほど有利にはならなかったと思います。なので、例えば大学側で留学の場合は試験日を帰国1週間後まで延ばしても良いという指針を出すなどすれば授業を持つ先生方も留学する学生に対する対応もとやすくなるのではないかと思います。東大のように多様な学部学科を抱える大学でこのような事で統一した対応を求めるのは難しいとは思いますが、留学を考える学生に対してもう少し柔軟で手厚いサポートがあってもいいのではないかと思います。

GSP の内容についていく事に困る事はありませんでしたが、GSP に参加したことで国際環境政策作りの場での英語の重要性とそれが必要とする英語能力の高さを思い知る事になりました。日常生活や勉強をする上で必要な英語力と国際環境政策で必要とする英語能力の差をものすごく感じました。複数の国家間での政策作りの場では単語や句読点レベルでの表現の細かい詰めの調整が行われます。このとき単語や語順の選び方、句読点の打ち方によって変わる微妙なニュアンスを素早く察知し、国益にかなうような表現になるように手際よく交渉をしていかななくてはなりません。英語を母国語とする人と対等にこのような交渉ができるレベルに英語力を持つていく事は難しく、自分たちを含めたアジア系の学生はともかく、比較的英語を得意とするヨーロッパ圏からの学生でも英語を外国語とする学生は苦勞していて、国際会議などで英語を母国語としている事がいかに有利であるかを肌で感じました。GSP に参加するまではフランスなどが国際会議でフランス語を使うことに執着していたことに対して、協調性が無いという

ような否定的な見方をしていましたが、今回その理由が少し分かったような気がしました。さらにツバルのような西洋文化に対する耐性のない国では国際会議で他国とやりあえるだけの人材を輩出するのは難しく、英語を母国語とする外国人を政府が雇って国を代表してもらっており、**GSP** で初めて知りました。自国を自国民が代表することすらままならぬ国際会議の場で弱い立場に置かれてしまう国があるという事実は衝撃的でした。これらの事を受け英語そして西洋文化が標準となる中、英語を母国語とし西洋文化の中で生きる側は、英語を外国語としなかったり、西洋文化になれなれなかったりする中で国際会議に挑む各国の代表に対してもっと理解を示し尊重するべきだとも思いました。また教育水準の高い先進国である日本に関しては、ツバルのように英語を母国語とする外国人を雇って国を代表してもらう訳には行きません。しかし国際会議で英語を母国語とする各国の代表とも対等に交渉などをする人材が足りているかははなはだ疑問です。今後厳しくなるであろう国際情勢の中で国益を守りぬくために英語教育をもっとする必要があると強く感じました。

このように、学期の時期のずれや語学の問題などから、日本にいたことで海外に出るにあたって不利になることもあります。また、**GSP** に参加しプログラムをこなした事で学術面では海外の一流大学に対して引け目を感じる事が無いという風を感じる事が出来た事も事実です。これまでは海外の大学に唯海外の大学だからということだけで行ってみたいという気持ちがありましたが、**GSP** を通してもっと自信を持って日本で勉強できるようになったと思います。また、少し日本から離れてみると普段感じない日本の長所にも気づくことができました。海外を見て自分の世界観を広げる事も大事ですが、それよりも自分が本当にどのような勉強や仕事がしたいかを慎重に考えそれを実現させるために最も適した場所がどこなのかを見定める必要があると思いました。特に日本人は海外への憧れが強いように思うので、このように日本で勉強する事のメリットにもっとしっかり眼を向けそれに気がつく事も重要だと思いました。自分も来年になってより具体的に進路が決まってからこの先海外に出るかどうかをじっくり検討したいと思います。

初めに **GSP** を通して自分の進路を考えたかったと書きましたが、実際このプログラムは国際環境政策に進路を変えるかどうかのものすごく良い参考になりました。上記にあるように政策作りの詰めが英語力を駆使し表現の見直しを地道に行う作業だということを知り、国際会議で政策作りを実際に行うのは自分にはあまり向かないと思いました。その代わりに **NGO** の活動が環境政策に与える影響や、環境政策を考えるにあたって必要とされる科学者役割についても学ぶ事が出来、環境政策に携わる様々な手段を知る事が出来ました。また自分の専攻からしばらく距離を置いた事で自分の地球物理の勉強に対する姿勢を再確認でき、一時期見失いかけていた初心に戻る事が出来たように思います。**GSP** に参加した事で今後の進路をどうしたいかはっきりと決まったわけではありませんでしたが、少なくとも方向性をつかむ事が出来たと思います。

来年やその先に留学を検討される方には、日本から留学するのにはやはりハンディがあり、大変な事もありますが特にまだ進路に変更がきく学部生の内は積極的に検討して欲しいと思いました。特に GSP のような短期留学は海外を比較的気軽に体験できる素晴らしい機会だと思うので、是非これを生かしてもらえればとおもいます。